



XML Consortium

～ 第8回 XMLコンソーシアムDay ～

sPlatプロジェクト

暗号化XMLデータ利用技術についての課題と対策

プロジェクト全体像と取り組み状況

2006年12月12日

XMLコンソーシアム

セキュリティ部会/Webサービス実証部会

松永 豊 (TELデバイス)

© XML Consortium 2005,2006



sPlatプロジェクト



2006年4月6日

XMLコンソーシアム

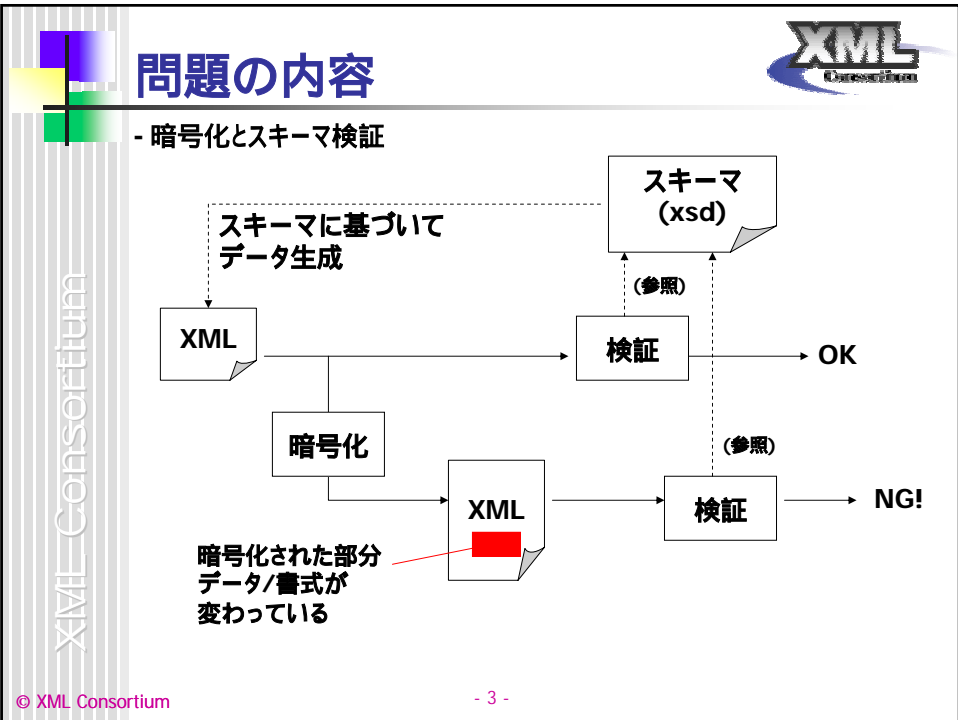
XMLコンソーシアム、 暗号化XMLデータの利用技術の検討を開始


XMLコンソーシアム(会長:鶴保征城 独立行政法人 情報処理推進機構ソフトウェアエンジニアリングセンター所長)は、本日、XMLデータのビジネス利用で必要となるXML暗号化の利用技術を検討する活動を開始しました。本活動では、従来困難とされてきた「暗号化XMLデータの妥当性検証」をスムーズに行う技術を確認するために必要な技術の検討と参考実装の開発および検証を行い、現実の業務への適用を提案していきます。この活動の結果として、XMLデータ交換、特にWebサービスにおいてデータ秘匿性を確保する手法を確立し、機密性を必要とする商取引のインターネット化推進に寄与することを目標としています。


本活動は、XMLコンソーシアムのWebサービス実証部会とセキュリティ部会が共同で実施します。

© XML Consortium

- 2 -



- # 問題の内容 - なぜ、困るか？
- 
- スキーマ検証は、なぜ必要か
 1. データ書式が正しいことを確認
 - アプリケーションでエラーが出ないように
 2. 不正なデータの侵入を遮断
 - 例 - ウィルスを紛れ込ませたデータ
 3. アプリケーションへデータを渡す
 - データバインディング...検証が必須
- データの妥当性検証

アプリケーションによる処理の一部
- 
- © XML Consortium - 4 -



プロジェクト状況



XML Consortium

- 2005年10月～
Webサービス実証部会とセキュリティ部会で、
解決への活動を相談
- 合同活動
 - 解決方法の調査、提案 - セキュリティ部会メンバーが中心に
 - 実装方法の検討、実施 - Webサービス実証部会メンバーが中心に
- スコープ (カッコ内は将来の課題 - 2006/12月時点)
 - 1. 妥当性検証、(2. データバインディング)
 - 1. スタンドアロン・ツール、(2. 検証エンジンとの統合)
 - 対象とするスキーマは、W3C策定のXML Schema
 - (ポリシー定義、伝達)
- 2006年度活動 - 課題部分の取り組みを開始



sPlatのビジョンと取り組み状況



XML Consortium

